

## 第23回 かたの環境を考える委員会

### 概要

- ・日時：2011年9月5日（火） 18:30～21:45
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：プロジェクトをつくる



### 進行・内容

18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。

毎回お知らせしていることだが、次回委員会に欠席される方は、必ず環境保全課まで連絡していただきたい。また欠席された方は、お送りしている報告書にしっかり目を通し、他の委員さんと同じ土俵で議論できるようにしておいてほしい。との話があった。

18:33 環境市民事務局長 堀孝弘より全体ガイダンスとロードマップの確認。

18:36 事前に行った第2回世話人会での議論内容を以下の通り報告した。

- ・11月26日（土）中間案発表会の開催時間は13:00からに決定
- ・託児について、実施する方向で検討

18:40 中間案発表会に向けた作業の役割分担について説明した後、すべての委員が4つの作業班（企画、資料作成、会場運営、広報）に分かれた。

18:45 4つの作業班に分かれて打ち合わせ

19:25 各作業班から打ち合わせの内容を5分ずつで発表した。

#### 企画班

- ・プロジェクトシートのたたき台をつくり、次回の世話人会に持参する。
- ・会場運営班が行う、ゆうゆうセンターでの会場下見に同行する。

#### 会場運営班

- ・中間発表会の会場となるゆうゆうセンターの多目的ホールを下見する。  
下見日時：9月12日13:00から 集合場所：ゆうゆうセンターのロビー
- ・横断幕や飾りについては、企画班から案が出てきたところで考える。
- ・途中退場者が出ないような工夫を考える。

#### 資料作成班

- ・グループから出す資料は、統一したフォーマットで作成する。
- ・11月14日の委員会で完成したものが提示できるように、原稿締め切りは10月末にする。
- ・「はじめに」の文章は、9月20日の委員会までに決める。9月12日に資料作成班で集まり詳細をまとめる。

#### 広報班

- ・9月20日にちらし素案を出し、9月末に市役所に広報誌の原稿を提出。
- ・チラシやポスター等の紙媒体、マスメディア（記者クラブ）、ブログ、ツイッター、Facebook、

タウン誌等で広報する。

- ・ 10月初旬からポスター貼りをする。
- ・ 他の班とスケジュールのすり合わせが必要。

全体

- ・ 中間案発表会のタイトルについて、広報班で次回委員会に案をまとめて出す。

19:45 休憩

19:55 各グループで議論。プロジェクトの内容を考える。

21:25 全体会で、各グループの議論内容を発表、共有。

#### 【エネルギーグループ】

ビジョンの議論をした。

#### 【エコ生活グループ】

10年後の交野市の生活について夢を語り、ビジョンを確認した。プロジェクトの一つを検討した。

#### 【まちづくりグループ】

公共交通のあり方を考えた。プロジェクトをどのくらいのスパンで実行するのかを考えた。プロジェクト別にデモンストレーションをすることについて意見が出た。

#### 【自然環境保全グループ】

里山保全と川に関するプロジェクトを検討した。次回は川の議論を中心に行う。

21:45 終了

### 中間案発表会について作業班での議論の詳細

#### 企画班

企画班の役割りについてのガイダンスののち、他の3班に一人ずつ合流し、情報収集を行なった。その後、各班の議論内容について共有、次回までにやることを確認した。

- ・ 9月12日 13:00 から会場運営班が行う、ゆうゆうセンターでの会場下見に同行する。
- ・ その際、会場運営班と意見交換をし、担当する役割りの確認を行う。
- ・ 次回委員会までにプランニングシートのたたき台を作成する。

#### 会場運営班

- ・ 会場（ゆうゆうセンター）の下見をする。

9月12日 13:00 から 集合場所：ゆうゆうセンターロビー

- ・ ゆうゆうセンターと、市役所中会議室それぞれの配置について考える必要がある。
- ・ 企画班から中間発表会全体の企画を出してもらってから考えていくこともあるのではないかな。
- ・ 題目（発表会のタイトル）がきまってから、横断幕の内容を考える。  
横断幕は、会場に入った瞬間に目を引くような見栄えになるようにしたい。

横断幕案：A3用紙をつなげてつくる /  
手書き（毛筆）/ プリンターを  
持っている人を探してみる。

- ・退場者が出ないようなレイアウト、工夫が必要。
- ・花などの飾りがあればいいのではないか。



### 資料作成班

< 資料内容として絶対必要なもの >

- ・プロジェクトシート フォーマットを決めて各グループへ投げる(文字の大きさ、数字番号のうち方、内容、ページ数など)...9/20 全体会で知らせる
- ・グループのビジョン A4・1ページ分で、写真、絵などは自由に

< 資料内容として他に必要なもの >

- ・表紙、タイトル、図柄
- ・趣旨説明(中間案発表会の目的)

経緯、計画策定背景、発表会までの活動、どんな思いを持ってやってきたか

< スケジュール >

9/12 14:00～ 資料作成班会議

10月末 各グループから原稿提出(〆切)

資料班で校正

11/14 各グループの原稿確定済

資料班の手元に揃っている

11/26 本番



### 広報班

対象：幅広く多くの人

子育て世代（主婦）、シニア世代、次世代（高校生から）

働いている世代、婦人会、地域の人、事業者（企業、流通、生産、販売等）

プロジェクトの推進に関わってくれる人

興味をそそるような内容、見せ方

媒体：ちらし、ポスター

マスメディア（四大紙@枚方記者クラブ、TV、KCAT、JCOM、枚方FM）

ブログ、Twitter、Facebook、地域ポータルサイト

市の広報誌（11月号）、市からの放送、

タウン誌（フリーペーパー SUMO、ぱど、マイライフ等）

高校の放送部、幼稚園の保護者会

アドバルーン（興味をひくための仕掛け）

## 新聞折り込みちらしは費用をチェック

前日までのスケジュール：

- 9月5日 広報班結成
- 9月20日 ちらし素案を検討し、案を一つに決定  
キャッチコピー、日時、場所、問合せ等  
ちらし配布先リスト作成
- 9月30日 広報原稿、ちらし(=ポスター)原稿の完成  
市広報入稿
- 10月-11月 広報班のみでちらし配布  
全員で日時、地点を分担してちらし配布
- 10月1日 紙媒体以外の媒体に当たる  
新聞、テレビ、ラジオ、インターネット、ミニコミ誌
- 10月第1水曜日 区長会へ持ち込み 自治会に伝達
- 11月1日 ちらし配布スタート
- 2週間前 プレス



宿題：中間案発表会のタイトル案、ちらし&ポスター配布先。  
タイトル案は次回委員会までにとりまとめる

## グループ議論の詳細

### 【エネルギーグループ】

#### 1. ビジョンの策定

グループビジョンとプロジェクトビジョンを議論し、仮確定をした。

##### エネルギーグループビジョン

自然の恵みをとりいれ、かしこくエネルギーを使うまち

##### プロジェクトビジョン

- ・太陽光発電普及プロジェクト(課題「自然エネルギーを普及しよう」)  
太陽の恵みをいかしているまち、かたの
- ・課題「省エネすすめよう」に対応するプロジェクト(内容は具体化していない)  
地球温暖化に気を配り、環境にやさしい配慮をしている(基本構想 65 から)

#### 2. 太陽光発電機普及プロジェクトの精査

##### プロジェクトタイトル

そらいけ ソーラーパネルプロジェクト

##### プロジェクトの内容

前回の議論を受け、先行活動団体と環境基本計画推進組織（現在の「考える会」を母体に次年度以降設立予定）との役割分担や、推進組織が担うべきことなどをまとめた図を見て議論した。特にこのプロジェクトを進めていく主体として、現在のエネルギーグループメンバーが母体となることについて確認を行った。

活動のなかで、太陽光発電機普及のための情報収集や整理・発信、特に市民が利用しやすい情報整理のあり方や、市民の設置を促すのに有効な情報発信の研究。アンケートなど市民、市民団体の要望の把握方法。市民向け啓発（地域エコキャラバン）、太陽光発電導入手引書の作成、エコアドバイザー認定、先行団体の活動紹介など、これまでの議論やプロジェクトシートで出された活動案を再確認した。

（課題のなかの表現の確認。自然エネルギーという表現でなく「再生可能エネルギー」が正しいのではないかと提起に対して議論した。結果、わかりやすさをとり「自然エネルギー」でいくことが確認された。）

### 3. 省エネを進めるプロジェクト

太陽光発電機普及プロジェクトのなかに「エコアドバイザーの認定」という項目がある。これを「太陽光発電機設置のアドバイス」だけでなく、省エネアドバイス全般ができる人材を養成するプロジェクトを考えられないだろうか、

現在、市担当課が実施している環境出前講座などと連携させて、推進組織やエネルギーグループの新規人材確保および人材育成に役立てられないだろうか。

次回までに、どのような「エコアドバイザー養成」ができそうか、また必要か、それぞれが考えてくる。

宿題：「エコアドバイザー養成」として、どのようなことができそうか、またどのようなことが必要か、それぞれが考えてくる。

久富委員の「風の通るまちづくり」の検討ができなかった。「課題・省エネをすすめる」のひとつのプロジェクトとして活かせるか、次回までに活かし方をそれぞれが考える。

<風の通るまちづくり>

#### 1. 風通しのよいまちづくり

・ ヒートアイランド減少の緩和のための研究が主

住宅地のような低い建物が密集している地域では風は弱くなる。

ビル街をもつ都市での研究が主

#### 2. 風通しのよい家

3か条 (1) 窓が2面以上あり一直線に対面していること

(2) 必要な時は常に開けておくこと

(3) 風向きを考慮すること（主風方向を確認すること）

例）天然の涼み処（陽だまり処）の開設

省エネ対策として、冷(暖)房器具の使用を控えるために、夏場は木陰や風通しのよい場所に(冬場は陽だまりに)椅子・ベンチを設置し利用してもらう。

内容

- ・地域の子どもたちや主婦・お年寄りに地域での風の通り道を探してもらう。
- ・探したところに椅子を置く(交野の木や竹を使った手作りベンチならなお良い)
- ・風の通り道マップを作成し、お散歩などに利用してもらう。

## 【エコ生活グループ】

(はじめに)

- ・ 今回の会議から参加された新メンバーの自己紹介
- ・ これからの作業として、プロジェクトの活動内容のステップについて、詳細を詰めていくことが必要であることを説明。参考として生駒市の環境基本計画のプロジェクト例、環境首都コンテストの水俣市のプロジェクトを紹介した。

### 1. ビジョン案の確認

- ・ 自然を身近に感じられる暮らし
- ・ 食とモノを大切にした暮らしをしている(イメージ:地産地消、食事の量、いらぬものは買わない)
- ・ エネルギー問題に関心を持ち、行動している人が多い
- ・ 次世代につながる
- ・ 一人ひとりが自分のできるエコライフを考えている
- ・ シンプルな生活
- ・ ゆったりと時間が流れていて心豊かな暮らし

上記のグループビジョンを確認し、10年後、20年後の交野の暮らしについて具体的なイメージを出し合った。

(出し合ったイメージの内容)

- ・ 地産地消のカフェがあり、市民公募で集まった農業塾で作った有機野菜をカフェで使う。
- ・ カフェで出た生ごみは堆肥化する。
- ・ カフェの隣にはリフォームショップが併設されていて、先生がリフォームについて教えてくれる(相談所という名前)。また、個人が趣味でつくった野菜を売るスペースもある。ごみの堆肥で作った野菜も持ち込まれている。
- ・ 市外からとかいなかを求めて土の道がある交野に来た観光客などに、農業体験をしてもらう。(いちご狩りなど)
- ・ 地産地消カフェにはレンタルの自転車(電動自転車もある)で行く。カフェが乗り捨てステ

ーションになっている。

「農」がくらしの身近なものになっている。また、くらしの中で様々な循環があり、環境負荷の少ない移動手段にもなっている。このような状態に交野を持っていくとしたら、どんなステップをふんで活動を組み立てていくか考えていくことが必要。

## 2. 課題のおさらい

ごみを減らそう

自動車に頼らない暮らしをしよう

(補足：公共交通を利用しよう、自転車を使おう、歩こう、自動車をできる限り/なんとなく使わないようにしよう、「あいのり」をしよう、コミュニティバスを実現させよう、カーシェアリングをすすめよう、自転車、歩行者が通りやすい道をつくろう)

エコライフをしよう

環境問題を学んで実行しよう

上記4つの課題に基づいて、プロジェクトが出ている。 の課題は、まちづくりグループと重複しているため、エコ生活グループでどう判断していくか。

意見

- ・ 環境家計簿のなかで、車に頼らない暮らしを学習するのはどうか。
- ・ レンタサイクルをしているところはあるが、上手く機能してない。リペアをする場所があればいいのではないか。
- ・ ゆうゆうバス停のまわりに駐輪場があればいいのでは。
- ・ 交野は自転車で動きにくい地形だが、平たい道もある。道づくりができれば、自転車や歩きも増えるので、道づくりと抱き合わせで考える必要があるのではないか。交野の駅前を自転車専用道にすれば便利だろう。
- ・ 市街地に車を乗り入れないまちづくりと、暮らしからの側面からのアプローチも両方考えればどうか。

学習のなかで学んでいく方法もあり、具体的に情報提供をして働きかけていく方法もある。仕掛けを洗い出すために、実際にまちを歩いて見つめてみてもいいかもしれない。交通についてはまちづくりグループと情報交換して検討する。

## 3. 課題別プロジェクトの整理

課題ごとに出されているプロジェクト案を見比べて、それぞれの関連性を整理した。

### 1)「エコ生活がしやすいモノの売り方プロジェクト」

- ・ 課題：ごみを減らそう、エコライフをしよう
- ・ 対象：企業、(市民)
- ・ 企業のメリットにもなることを伝える

## 企画案

- 1 名前未定（エコライフチャレンジコース、お客さんのメリット、井戸端会議）
- 2 名前未定（企業・事業主との話し合いの場を設置、売り方提案）
- 3 ごみの発生を抑制する売り方・買い方の提案（事業者と消費者が話し合う場、学習会、様々な売り方、わがまちエコショップの推進）

## まとめ

- ・お店の現状調査、交野の人の買い物状態を調査
- ・事業者と消費者が情報交換、学ぶ場が必要
- ・ごみの発生が少ない売り方をしている店の情報提供が必要
- ・実験販売の提案

## 2) どうしても出たごみの有効利用プロジェクト

- ・課題：どうしても出たごみの有効利用（例：生ごみの堆肥化）
- ・対象：未定

## 企画案

- 1 自分に応じた生ごみ堆肥をしよう
- 2 生ごみ堆肥化

## 3) 環境学習プロジェクト

- ・課題：環境問題を学んで実行しよう、ごみを減らそう、エコライフをしよう
- ・対象：市民（親子）、事業者
- ・大量生産、大量消費ではない、シンプルな暮らし方、エコライフを知ってもらえる機会をつくる
- ・節約にもつながるといったメリットを伝える。
- ・やわらかめ、かための内容を含む。

## 企画案

- 1 親子でチャレンジ（省エネがテーマ）
- 2 誰でもエコろじん（環境学習に関するニーズ調査と講座プログラムづくり）
- 3 名前未定（環境家計簿の推進、省エネ）
- 4 「エコライフ達人への道」攻略マニュアル(交野版環境学習プログラムづくり)
- 5 とかいなかライフプラザ（コミュニティカフェ、テーマは食と農）

それぞれのプロジェクトに関連している部分がある。「親子でエコチャレンジ」と「環境家計簿の推進、省エネ」のプロジェクトは関連させて考える。

「エコライフ達人への道」と「誰でもエコろじん」プロジェクトも関連性を考える。

次回の会議で、環境学習プロジェクトのプロジェクト案の関連性について検討する。

宿題：それぞれのプロジェクトの関連を考えてくる。

次回は、宿題をもとに各プロジェクトを深める。

## 【まちづくりグループ】

### 1. 各チームの宿題発表と意見交換

#### 課題 環境を大切に考えた観光をもっと活発にし環境のまちづくりにつなげていこう

自然満喫エコツアー

既存のハイキングコースを活用した観光（エコツアー）を行う。

コースの要所にポイントを設け、各ポイントで工作体験・地産農産物の購入等ができるようにする。

・観光協会の「星の里めぐり」というコースがあり、基本的に里と山を結ぶコースになっている。

説明ポイント(古文化系)が整理されている。

・“私市植物園”をポイントに入れる。

・地産農産物の検討

ツアーガイド(インタープリター=自然通訳者)が付き添い、通常のハイキングでは味わえない体験をしてもらう。

・ガイド養成は、観光ボランティア養成講座(古文化系)を活用・拡充する。+自然系

四季を通じてのツアーを行う。

<出た意見>

・観光ボランティア養成講座はみんなの活力課が行っており、現在ガイドは10名ほど。講師ガイドはうち3名で、自然系の人はいない。

・地産農産物の検討について、経済効果をもたらす動きにするには何が必要か 場所、建物、提供元(個人・団体)、メニューなど。農産物だけでなく加工品や特産品も視野に入れ、「交野もん」のような展開を考えてはどうか。

<他の地域での事例>

・大阪産<sup>もん</sup>：大阪府産の農林水産物と特産加工品をプロモートする大阪府の取組み

#### 課題 住民が主体になって、乗りたいバス・乗りやすいバスにしてゆく

交通弱者の子ども、高齢者、障害者がいつでも利用しやすいバス運行路線体系を構築する

(第1段階)市内の公共交通機関の実態調査を行い問題点を検証する。

実態調査期間として2年

(第2段階)交通実態調査結果をもとに「交通問題検討委員会」を設立する。

調査結果の検討期間として1年(通算3年)

(第3段階) 交野市内の公共交通機関の「将来のあるべき姿」をまとめる。

検討期間として1年(通算4年)

(第4段階) 交野市内の公共交通機関の「将来のあるべき姿」の実現をめざす。

検討期間として2年(通算6年)

< 出た意見 >

- ・関係課として、運転については暮らし安全課、バス路線については都市計画課、道路整備については道路河川課が挙げられる。
- ・通算6年とあるが、20年スパンで考えるくらいの壮大な計画ではないか。
- ・この環境基本計画は、10年程度で考えるのが良いのではないか。
- ・どこまでを達成目標にするか考えてみてはどうか。
- ・発表会で市民からの質問に対して、個人としてでなく委員会としての回答ができるためには、より深く議論し内容を濃いものにしておくと同時に、メンバー全員で共有しておくことが大事。
- ・その上で、プロジェクトシートに書きこむ内容には、それを見た人に魅力を感じてもらい、一緒になって考え行動してもらえらるような、人を迎え入れる余地をつくる必要がある。

生活交通の充実による“暮らしやすいまちづくり”

(第1段階) 協働による、生活交通の利活用のための組織作り、地域市民への各章アンケート調査、地域市民との合意の下、モデル路線を決定

プロジェクト開始~2年目まで

(第2段階) 全市民に対する生活交通の提言書を報告する場をつくる、デマンド交通の導入検討に入る、概略予算についての再検討

2年目~4年目まで

(第3段階) 提言書を交野市へ提出する

5年目まで

< 出た意見 >

- ・ビジョン案として、“地域への愛着を育む魅力あるまち”“誰もが安心して住まい、自宅からまちなかまで安全・快適に暮らせるまち”を加えたい。
- ・課題 についての二案は、基本的に同じような内容を含むので、次回までに併せたものを作成する。

課題 誰もが自転車で走りやすく、歩きやすい道づくり、みんなが自分のこととして考え解決してゆく

自転車に乗って、交野をより住み良い町にしよう!

交野の地域別自転車ハザードマップをつくろう。

- ・各地域のそれぞれの危険箇所を載せた地図を作って、みんなで共有する。
- ・子供，大人のそれぞれの目線で作ることで危険箇所が発見しやすいと思われる。  
自転車安全講習会を行い、中学生未満には免許証，それ以外の人には修了証を渡す。
- ・荒川区の事例を基に、交通ルールやマナーの向上を図る。  
駅前の駐輪場などに簡易の自転車屋を設置する。
- ・仕事や学校でなかなか自転車屋に行けない人ために、駐輪場を利用している間に修理などを行うサービスをしてはどうか？  
駐輪場を等間隔で設置し、自転車で買い物等しやすい環境をつくる。
- ・茅ヶ崎では「のきさき駐輪場」という名前で店の前に駐輪スペースを作り、利用時間を制限して提供しているお店がある。また、AM9:00～PM5:00 までで1回300円のレンタサイクルなどを行っている。(交野でも星田駅で行っているレンタサイクルを広めれば、自転車の使用が増えるのではないかとと思われる)  
自転車の走行しやすい道路を整備するために、行政に呼びかける。
- ・短期間で道路整備をしてもらうことは、ほぼ不可能に近いため、中・長期的に考えて行政を動かすための材料を見つける。

#### <各プロジェクトに必要な視点>

- ・内容それぞれにかかる期間(時間)を明確にする。 短期・中期・長期
- ・内容の順序を明確にする。
- ・他の課との関係を明確にする。

以上を踏まえ、何から始めたら人が集まり、どのくらいの時間をかけて、最終的にどうなればいいのかの設計図を書くイメージで、プロジェクト案を磨いてゆく。

#### <今回議論しなかったプロジェクトについて>

- ・課題 の「農業活性プロジェクト～都会にいても農業ができる～」は次回までに深める。
- ・課題 「地域で子どもを育てる環境づくり」については次回までにプロジェクト化する。

宿題：各チームで相談し、担当課題の企画内容を深めてくる。

今回は宿題を持ち寄り共有。さらに各案を深めるための意見交換を行う。

### 【自然環境保全グループ】

#### 1.農とみどり課の質問への回答

もっとも関わりの深い課に質問をし、おおむね以下のことが確認された。

- ・里山整備事業の最終目的の図は描かれていない。
- ・里山の台帳はない。自然公園 797ha、保安林 268ha、市の保全環境保全緑地 9.4ha。

- ・里山整備に関する問題を市としては認識しており、条例や計画は整備している。それに基づいた具体的な動きはない。
- ・整備の実行を担うのは市民団体や企業ボランティアと考えている。活動している市民団体は、交野里山ゆうゆう会と都市近郊の森を育てる会。
- ・地主さんには問題を認識している人もいると思われるが、高齢化で行動をすることが難しかったり、所有地に入られることを嫌ったりする方もいる。区長さんや財産区に相談してすすめるとよい。
- ・他の活動と自然環境保全グループは、活動内容があれば協力可能かもしれない。

## 2. 里山保全のプロジェクトについての意見交換

### < 里山保全プロジェクトのここまでのまとめ >

前回までにグループのメンバーが出した意見を並べてまとめてみた、以下のプロジェクト案をもとに話し合った。

#### (第一段階)

- ・地積図を作る
- ・里山の生態系を調査する
- ・管理方針ごとに里山をエリア分けする
- ・里山保全団体の実態を調査し、活動力を高める
- ・地権者のニーズを把握する

#### (第二段階)

- ・地権者が山を整備することにメリットが得られる仕組みをつくる
- ・里山保全団体が活動により資金を得られる仕組みをつくる
- ・地権者と里山保全団体をつなぐ仕組みをつくる

#### (第三段階)

- ・仕組みをPR する
- ・地権者と里山保全団体をコーディネートし里山保全をすすめる

### < 今回の議論 >

これまでメンバーが個々に考えてきた里山関係のプロジェクトはすべてここに集約されているので、別個のプロジェクトとはしないことにする。

このプロジェクトをこのまま一つにまとめるか、別の流れでまとめなおすか。

次の三つに分けてみてはどうかという案が出た。

- (1) 里山を知ろうプロジェクト  
(現状を学ぶ仕組み、ファンを増やす仕組み)
- (2) 里山活動をする人を増やすプロジェクト

(里山を保全する人を育てる仕組み)

(3) 里山の持ち主と活動団体をむすぶプロジェクト

(地主と活動団体の仲立ちをする仕組み)

<活動上の三つの課題に関する解決策>

里山保全活動をすすめる上での次の三つの課題について、どんな解決案があるか、前回の宿題に対する提案内容を出しあった。

(1) 人(ボランティア)が活動を続けられる仕組み

- ・定年後の人生に生きがいの感じられる活動場所をつくる(シニア対象)

(2) お金の回る仕組み

- ・整備を依頼する地主よりお金を出してもらう
- ・里山保全税を創設し、里山保全団体へ回す 人も回るようになる
- ・寄付を募る
- ・交野市の資源を発掘し、それからビジネスとして、お金が回るシステムを構築する(たとえば、交野の山の一部をタケノコ山にする等)

(3) 地主の協力を得る仕組み

- ・交野市関係者と農協の賛同を得て、里山整備は地主と共同参加する。

<宿題>

里山保全プロジェクトについて、原案をもとにプロジェクトシートにまとめなおしてみる。

### 3. 川の環境保全プロジェクトについての意見交換

担当者より概略の紹介があった後、全員でフリーディスカッションをした。

<出た意見>

- ・川とは、天野川を指すのか、その他の川を指すのか?
- ・生きものの豊かな川、地域の小川というイメージ
- 「きれいな川」と「豊かな川」はちがう。理想の川は?
- ・支流は生きものの多い川であってほしい
- ・川もエリア分けが必要では(防災/生物/遊び/.....)
- ・川の昔の姿を知り、今とどう違うか考える
- ・生きものの棲みやすい川 = 環境の多様な川
- ・防災上は必要かもしれないが、三面張りでは生きものは棲みにくい
- ・昔は生きものが多かったが「交野の環境」では生きものがあまりいないと掲載
- ・コイの放流で他の魚が減少した
- ・天野川に注ぐ水マップ(つながり図)づくりをしてはどうか  
(地形調査も必要かも。雨水計画図はすでに作られているはず)

- ・生きもの調査（捕獲、聞き込み）、パックテスト、子どもと調査
- ・学校教育に川に関するプログラムを取り入れる
- ・河川の管轄は道路河川課と下水道課、枚方土木事務所
- ・雨水幹線

<宿題>

川に関するプロジェクトの内容を具体的に考えてくる。

次回の予定：今回の議論を踏まえ、里山保全のプロジェクトをまとめていく。また、川に関するプロジェクトについて議論する。

以 上